

## 分科会の記録 <第4分科会 組織・運営に関する課題>

【提言者2】宮崎県 延岡市立東海小学校 篠原 光教

【提言主題】コミュニティスクール導入期の組織づくりと教頭の役割

－ A 中学校区コミュニティスクールの実践を検証して －

【協議の柱】

コミュニティ・スクールをマネジメントするための人材育成と副校長・教頭の役割

【グループ協議 報告】

提言を受け、20のブレイクアウトルームで「継続性」、「協働性」、「関与性」の3つの視点をもって、協議が行われた。まず、多くのルームでは、コミュニティスクールの導入や取組状況について情報共有が行われた。コミュニティスクールが導入されている地域やこれから導入予定、学校評議員会中心の未導入地域など参加者の地域によって状況が異なった。

また、コミュニティスクールの構成者についても報告があり、「弁護士の方に参加してもらい法的な相談ができたこと」、「地域の学校支援員を兼ねるコミュニティスクールディレクターがいること」、「複数校で連携して協議会を開催していること」などが紹介された。

担当者については、多くの学校が副校長、教頭、主幹教諭が担当している現状が確認された。教務主任や生徒指導主任が担当する学校や地域連携担当やコーディネーターを校務分掌内に位置付けている学校も見られた。しかし、働き方改革の面からその他の職員の関わりがあまりない状況がみられた。人材育成の面から、今後、若手職員にも学校運営協議会に参加させようとする動きがあることも紹介された。ルーム内では、「委員の人選が難しい」、「なり手がいない」などの委員確保や「運営に行き詰っている感がある」など活動のマンネリ化、コロナ禍によって活動が難しくなっているなど活動縮小化などの課題があげられた。

副校長、教頭の役割として地域の要望把握や情報収集、連絡調整（窓口）、学校目標や取り組み内容などの地域や関係方面への情報発信や周知、組織づくり、人材発掘などが確認された。

【指導助言：全公教顧問会】（埼玉県三郷市立彦郷小学校長 加藤 景子 氏 ）

「つなぐ、いかす」をキーワードに指導助言をいただいた。特に教頭会としての力、組織力を感じる取り組みであり、「熟議」「目標ビジョン」「役割の明確化」の大切さが伝わる提言であったことを述べられた。

また、魅力ある学校づくりにおける副校長、教頭の「調整力」の重要性や地域とともにある学校に変化したことによる「学校をよく知ること（学校の強み）」や「地域とともに何ができるを考えること（人材、資源を把握すること）」などの副校長や教頭としてすべきこととお話しいただいた。

最後に、今後、「校長だったら」という視点をもつことが大切であることを助言いただいた。

【指導助言：佐賀県】（佐賀県西部教育事務所長 平井 敏博 氏 ）

コミュニティスクールに関するこれまでの経緯について話をされ、「組織づくり」、「教頭の役割」について指導助言をいただいた。組織づくりにおいては、グループから同じ意図、志をもった集団にしていくことの大切さやカリキュラム・マネジメントと直結し、学校経営方針などの大枠を理解してもらうことを目的に組織づくりを行う必要があることを助言された。

副校長や教頭の役割では、業務が集中している現状があるが、改善していくことが大切であることを、手掛かりを紹介しながら説明された。今後、時代の要請も含め動きが加速化していくので、幅広い教頭同士の連携を進め、カリキュラム・マネジメントとのつながりを考え、推進して欲しいと応援の言葉をいただいた。